

淀川城北ワンド(大阪市旭区)のとりくみについて

淀川河川事務所 河川環境課長 志鹿浩幸

大阪市旭区にある城北ワンドで環境改善のため、平成18年11月16日から平成18年12月8日まで干し上げ実験(水位2m低下)を行いました。その際に、在来種の捕獲のため、合わせて外来種の駆除を実施しました。この実験のその後の状況について報告します。また、今年度、城北ワンドにおいて流れを創出し、外来種が嫌う環境が創出できないかの予備実験も途中の経過報告となりますが予定しております。

城北ワンドは、淀川の下流から12.6kmの左岸にあります。ワンドは平常時、淀川の本流と水域を異にし、細い水路で繋がっている状況で洪水時に繋がる水域です。2.8km下流には、淀川大堰があり湛水区域になっています。ワンドの大きさですが、約50m×約60m=約3000m²で水深約3m(水深1mで約2/3程度の底が見える。)となっています。

昨年干し上げ実験をし、外来魚は駆除しました。捕獲した魚の数は全体で約3700尾となっています。その内外来種は、約3400尾という状況で約9割を占めていました。

(外来種の内訳ですが、ブルーギルが約3300尾(大きな個体(10cm以上)は167尾)、ブラックバス54尾、カムルチー2尾、カダヤシ50尾)

確認された在来種は、フナ類170尾、ニゴイ類15尾、コイ1尾、トウヨシノボリ約30尾、ヌマチチブ20尾、コウライモロコ約30尾、ハス約30尾、シロヒレタビラ1尾、キギ2尾、ヒガイ2~3尾、オイカワ2~3尾、タモロコ1尾、モツゴ2~3尾、ウナギ1尾を実験資料後放流しています。

平成19年度は、4つのワンドを対象に、上流部を締め切り、水位低下時、水位保持時、水位回復時などで、どこで、どれぐらいの流れが発生するのかを調査する予備実験を12月に実施しています。

最後に、皆さんの研究に比べれば、単に報告という形ではありますが、何かに活用して頂ければ幸いです。